

大会ブリテン 第3号

2025年8月3日発行

エクスカーションを満喫

大会2日目(8月2日)は、朝食後、それぞれの参加者が、希望する4つのエクスカーションコースに出発しました。また、5番目のコースとして、熊本城ホールで、ユースの活動発表や音楽を楽しむセッションも開催されました。

第1コース 阿蘇巡りツアー

大自然と癒しを堪能した阿蘇山周遊コース

阿蘇の魅力を存分に味わう周遊コースでは、参加者が熊本の自然にふれるひとときを楽しみました。

まず訪れた白川水源では、澄んだ湧き水と緑に囲まれた空間で、静けさに包まれるひとときとなりました。続く草



千里ヶ浜では、雄大な阿蘇山を望みながら草原を散策。心地よい風に癒される時間が広がりました。

阿蘇ファームランドでは、地元食材を活かしたランチバイキングに舌鼓を打ち、交流も深まりました。最後の大観峰展望台では阿蘇五岳の絶景に歓声上がり、参加者は、思い思いにカメラを向けていました。自然の豊かさを五感で味わえる、



心に残る一日となりました。

第2コース 八千代座酒蔵ツアー

山鹿の歴史と味わいにふれるコース

熊本北部・山鹿市を巡るエクスカーションでは、自然と伝統文化、地元の味を楽しむツアーが展開されました。

菊池渓谷では、緑と清流に包まれた涼やかな空気



の中、心癒される散策を体験。昼食は、横手会館で地元食材を使った料理を楽しみました。

午後は、芝居小屋「八千代座」にて、

華やかな舞台公演を鑑賞。

その後、老舗の酒蔵「千代の園酒造」と「木屋本店」を訪問し、伝統の味と技にふれるひとときを楽しみました。山鹿ならではの魅力が詰まった一日となりました。



第3コース 通潤橋ツアー

歴史と自然に癒される通潤橋散策コース

阿蘇とはまた違った熊本の魅力を味わえる「通潤橋散策コース」は、歴史と自然の静かな調和を感じるひとときとなりました。

参加者一行がまず向かったのは、水前寺成趣園としても知られる「水前寺公園」。手入れの行き届いた日本庭園では、池の周囲をゆっくりと歩きながら、心を落ち着けるような穏やかな時間が流れました。湧水が満ちる池や、四季折々の植栽に囲まれて、参加者は、写真を撮りながら日本の美を感じ取っていました。

次に訪れたのは、山都町にある国宝「通潤橋」。江戸時代に建造されたこの石造アーチ橋は、現在も



なお水路橋として機能しており、その優れた構造と歴史的価値に多くの人が感嘆の声を上げていました。橋

の前でガイドの説明に耳を傾けながら、写真を撮る姿も見られました。

通潤橋のたもとで吹く風に心癒されながら、参加者たちは熊本の深い歴史と自然を穏やかに味わう時間を過ごしました。多くの文化的発見とともに、豊かな交流が生まれた印象的なコースとなりました。

第4コース 熊本城ぶらり歩きツアー

歴史と復興の風景を歩く

「熊本城ぶらり歩きツアー」では、参加者たちが熊本の象徴・熊本城を中心に、歴史と復興の歩みに触れました。大会会場と熊本城の間は徒歩を予定していましたが、猛暑のため、タクシーに変更して実施しました。

熊本城は、加藤清正によって築かれた名城で、日本3名城の一つにも数えられています。2016年の熊本地震により大きな被害を受けましたが、復旧工事は段

階的に進められ、2021年には大天守・小天守の内部公開が再開。2025年7月現在、天守閣や一部の櫓・石垣などが見学可能となっていて、震災の爪痕と復興の軌跡を同時に感じることができます。

ツアーでは、復旧が進む城の姿に目を凝らしながら、石垣や櫓の構造に興味深く見入る参加者の姿が見られました。途中、写真撮影を楽しむグループや、城下町の風情ある景観に見入る人々の姿も見受けられました。



このツアーは、熊本の歴史と未来への希望が交錯する場を体感できる貴重な機会となり、参加者たちの心に深く刻まれるひとときとなりました。

第5コース ワイズ・ミュージック・フェス

音楽と踊りに包まれた笑顔溢れるひととき
熊本城ホールの会場では、夏らしいにぎわいに満ちたフェス形式のイベントが開催され、参加者たちは思い思いに楽しみました。

第1部では、日本のユースによるSDGsアクションの発表が

行われ、社会課題への前向きな取り組みや創意工夫が紹介されました。若い世代ならではの感性に、多くの来場者が熱心に耳を傾け、共感を寄せていました。



第2部ではロールバックマラリアの啓発プログラム



後、音楽や踊りを中心に、バンド演奏や民族舞踊など多彩なパフォーマンスが披露されました。伝統文化の香り漂う演目、

軽快なリズムに心弾む演奏など、会場全体が一体となって盛り上がりました。

手拍子や歓声が飛び交う中、思いがけない出会いや交流の場面も生まれ、世代や国籍を超えてつながる温かな雰囲気が印象的でした。心に残る楽しい時間となったことは間違いありません。



地域会長晩餐会、盛大に

華やかに、賑やかに

エクスカーションから帰着し、フリータイムの後は、ホテル日航熊本での、地域会長晩餐会(APナイト)でした。

山下真日本区理事による開会祈祷、田上地域会長の挨拶、ロナルド・ヤム世界YMCA 同盟副会長(2025-26年度 ワイズアジア太平洋地域会計)の祝辞、中井信一西日本区理事の歓迎の辞に続いて、ラ

チャン・マニーカーン次期アジア太平洋地域会長の発声



の乾杯で、晩餐会がスタートしました。

水の町 熊本

熊本は「火の国」として知られる一方で、豊かな地下水に恵まれた「水の町」でもあります。市内には清らかな湧水があふれ、その水質はミネラルウォーター並みに高く評価されています。熊本市の水道水は全国でも珍しく、すべて地下水でまかなわれており、市民の生活を支える誇りでもあります。

また、エクスカーションでも訪れた、江戸時代に造られた石造りの水路橋「通潤橋」は、山間部の農地へ水を届けるための歴史的施設で、今も人々を魅了しています。

熊本のまちを歩くと、水とともに生きてきた人々の営みや、湧水、水路の風景に出会えます。火山の恵みと水の文化が息づく熊本の魅力を、ぜひ感じてみてください。

ユースによるパフォーマンス

晩餐会に招待された、アジア太平洋地域ユースコンボケーション(AYC)参加のユースたちによるパフォーマンスが行われました。

ユースたちは、AYC の開催、晩餐会への招待を感謝し、ギターの伴奏で「カントリーロード」を歌い、大会参加者も唱和し、会場は彼等を歓迎する大きな拍手で満たされました。



心と声を合わせて

アジア太平洋地域では一昨年の「ソングフェスト」の開催に際して、ソングブックを制作しました。それに関わったチームのリードで「いつもそばに」(八代クラブワイズメネット守田涼子さん作詞・作曲)と「Y.M.C.A.」by Village People を歌いました。



本大会を機に世界中でこの歌を歌ってヤングマンはトランプだけのものではないことを発信しようという意図でした。参加者全員が一つになって歌い、踊る一体感に満ちた時間となりました。

おてもやん踊り

晩餐会のフィナーレは、リズムカルでコミカルな振付の「おてもやん踊り」でした。



熊本のワイズ、ワイズメネットの皆さんの息の合った踊りに魅せられている内に、いつしかフロア

に降りてきた一行に、会場の参加者も加わり、大きな盛り上がりを見せました。

ありがとうございました

皆さま、大会は楽しんでいただけましたでしょうか？
出会いと発見の場となりましたでしょうか？

皆さまのご協力で、各プログラムを進めることができました。大会を成功に導いていただいた皆さまのご参加そしてご協力に深く感謝申し上げます。

私たち実行委員会は、およそ2年間、今日をゴールとして準備をしてきました。何かと不行き届きもあったかと思いますが、どうかワイズの仲間同士の優しいお気持ちでお許しください。

暑い3日間、皆さまと過ごした時間は、ホストコミッティーメンバー全員の心に残るものでした。
また、いつかどこかの大会で再会することを楽しみにしています。

お気をつけて帰途につかれますように。

第31回アジア太平洋地域大会
ホストコミッティー一同

大会の写真アルバムは、<http://30d.jp/ysjapan/41>

でご覧いただけます。

高精細の写真は、個別にダウンロード
してご覧ください

